特集・協議会活動　道南技術士協議会

道南技術士協議会の活動

北海道技術士センター　道南技術士協議会　会長
技術士（水道部門）　船　山　明　彦

１．はじめに

新年を迎え、北海道技術士センター会員の皆様におかれましては、目標も新たにご活躍されていることと推察いたします。

今年は技術士全国大会が札幌市で開催予定となっており、そのテーマは「社会貢献」であると伺っております。道南技術士協議会でも「地域社会への貢献」を目標として日々研鑽を重ねている最中です。

現時点においては、活動成果を評価する段階にはないと判断しますが、協議会活動を通じて大きく社会貢献を果たされているメンバーもいらっしゃり、道南技術士協議会としても大きな励みとなる材料が少しずつ増えてきている状況です。

今回はその内容も含め、現在までの道南技術士協議会の活動について簡単に紹介させていただきます。

２．道南技術士協議会の組織

道南技術士協議会は、渋谷前会長や諸先輩のご尽力により、昭和 58 年に 15 人のメンバーで発足し、現在、技術士 25 名、技術士補 7 名、計 32 名で組織構成されております。

2002 年（平成 14 年）4 月より技術士 CPD 登録が開始されたことを契機に、中央依存の体質から脱皮した地方組織独自の体制づくりに着手し、現在以下のような組織体制で協議会活動を開始してきています。

○組織体制

事務局　㈱ノース技研内に設置

役　員　会長１名、副会長２名、幹事 10 名、
　　会計１名、監査１名

３．道南技術士協議会の目的と活動

○目　的

「この会は、主に道南会員相互の親睦をはかるとともに、会員の自己研鑽及び地域貢献に寄与することを目的とする。」（道南技術士協議会規約より）

上記規約の目的を補足すると、道南会員の CPD 獲得時間をできうる限り地方組織で対応し、地方組織特有のコンパクトな機動力を発揮させることで、全員が参加意識を持つことのできる活力ある組織を目指したものであると言えます。

協議会活動を通じて様々な分野への関わりを持ち、同時に、「技術士」への認識を持っていただく中で、新たな展開の渦が生じてくるものです。我々は、その渦を拡大していくことで、地域に根ざした社会貢献を行っていきたいと考えております。

○活　動

月に一回程度幹事会を実施し、勉強会等の企画立案、情報交換等を行い、道南会員へ CPD 情報を提供しております。また、各会員からの情報についても事務局が一元化し、インターネットを介して情報の迅速な共有化を図り活動をしている状況です。

現在までに実施してきている活動内容は、表－１のとおりであり、会員以外の方々にも多数参加をいただきながら共に知見を広げ、ネットワークの構築、拡大に向けた取り組みを行っています。

協議会活動を継続していく中で、大学の研究者や関係機関との交流も進み、技術士に対する認識もしだいに深まってきており、その結果、道南技術士協議会の太宰技術士が「函館都市エリア産学官連携促進事業（文部科学省）」の科学技術コーディネーター

に選任され、活躍をしております。

「都市エリア産学官連携事業」とは、都市エリアの地域特性を踏まえ、大学等の知恵を活用した新技術シーズの創造により新規事業等の創出、研究開発型の地域産業育成を目指すものであり、まさに技術士の存在が欠かせないものであると考えます。

このように協議会活動が着々と実を結んできており、道南技術士協議会への講演依頼もくるようになってきました。

本年1月23日には、函館市において「第23回地域産学官と技術士との合同セミナー」が開催予定となっており(この文書は、2003年12月に書いております)、道南技術士協議会は、このイベントを起爆剤として、今年も活発な活動展開を図っていくつもりです。

4．道南技術士協議会へご一報を

道南地方へ転勤等で転入されてきた会員の方々を協議会事務局が把握しきれない場合がございますので、下記事務局まで是非ご一報をいただき、協議会活動にご協力くださいますようお願いいたします。

事務局

㈱ノース技研（担当　松田、布村）

TEL 0138-43-6500　FAX 0138-43-2475

E-mail　s-nunomura@north-giken.co.jp

5．おわりに

21世紀初頭を歩みゆく現在の我々ですが、その背景には、混迷する国際情勢、分野を問わないグローバル化が進展し、地方においては地方分権制度の推進、市町村合併特例法に基づく組織改編が進められております。

科学技術の世界においても大量生産・大量消費といった「20世紀型の科学」からIT、環境を基軸としたハイブリッドな「21世紀型の科学」へとシフトすることが必要な時代に入り、加えて20世紀に残してきた負の遺産を消化する技術が要求されています。

このような変革の時代であるがゆえに、我々技術士は、産・学・官との連携を密にし、国民生活に密着していくことが必要であると考えます。

その中で、持続可能な新しい生活・社会・産業基盤の構築に向けたパイプ役として、活力ある国土の再生を果たしていくことこそが「技術士に課せられた社会貢献」であると私は判断しています。

表－1　協議会の活動内容

2002.07.05	「マリンケミカル研究所見学会」(長谷川技術士)
2002.07.26	「北海道縦貫自動車道工事現場見学会」(真田技術士)
2002.09.03	「ロボカップレスキュー講演会」(公立はこだて未来大学　松原教授)
2002.10.09	「ベンチャー企業の技術とマーケッティング講演会」(公立はこだて未来大学　鈴木教授)
2002.11.20	「噴火湾の渦を測る講演会」(北海道大学　三宅教授)
2003.03.13	「コンクリートの環境調和と耐久性講演会」(東京農工大　藤井名誉教授)
2003.05.09	「函館市水道局赤川浄水場見学会」(福田技術士)
2003.06.11	「JR新駅舎見学会」(JR北海道本社工務技術センター　藤田氏)
2003.07.11	「鹿部町上水道施設及び漁業研修施設見学会」 (鹿部町役場建設水道課　真鍋課長代理、道立漁業研修所　松尾係長、 道立栽培漁業センター　河野主査、栽培漁業振興公社鹿部事業所　表谷所長)
2003.06.21 ～08.02	「北大水産学部公開講座」(北海道大学　斉藤教授　他)
2003.09.26	「北海道立工業技術センター研究成果説明会及び施設見学会」 (北海道立工業技術センター　加賀室長)
2003.10.21	「茂辺地高架橋（ニューマチックケーソン）工事現場見学会」 (函館開発建設部函館道路事務所　別宮課長)